

地域資料の取り扱いについて

人文学部社会学科
14110861 二宮 愛

1. はじめに

今日、地域のことについて正確に知るためには、図書館にある地域資料を活用するのが得策である。地域資料には、その地域の歴史や産業など様々なことが書かれてあるため、地域住民が地域について理解し、自治に参加するのに重要な資料である。

では、公共図書館における地域資料の取り扱いはどのようなものだろうか。本レポートでは、地域資料の範囲を定める理由、分類を一般資料とは異なるものにする理由、取り扱いにおいて注意を要する点の三つの観点から考察していくことにする。

2. 地域資料の範囲を定める理由

地域資料の範囲を定める理由として、利用者に地域を見据えた資料を提供するためであると考えられる。平野（1998）は、郷土とは「生まれ育った土地、ふるさと、故郷」を意味するもので、明確な地理的範囲を示すものではないため、地域資料の範囲を定めなくてはならないとしている。同じ地域の出身でも個人によって、郷土の意味は違っているだろう。そのため、資料だけでも、範囲を定めて提供した方が利用者にも活用しやすいといえる。また、根本（1999）は、生活圏といったときに、多くの人がある生活スタイルや交通手段などの条件に応じて、これらの「地域」を使い分けるように、地域資料もそれに合わせてその範囲を様々に設定する必要があるとしている。資料の範囲を定めることで、利用者が求めている情報を明確に提供することができるだろう。このように、利用者が知りたい情報をより詳細に提供するには、範囲が定まっている方が便利だと考える。

3. 地域資料の分類を一般資料とは異なるものにする理由

地域資料の分類は、荒井（1999）によると、主題による分類と地域による分類に分けられ、排架構成にあたりどちらを優先させるかを決定するとしている。また、主題分類の決定は、一般資料と同様だが、地域分類は、自らの自治体を核にして、その中を町丁などの地域により細区分し、その周辺にやや広域を包括する地域を展開していく方法が一般的で、独自の体系をもつところが多いとしている。その地域の特徴によって、区分した方が、利用者が目的の資料を迅速に見つけ出すことができると考えられる。よって、利用者の利便性を考慮して、一般資料とは異なる分類にしたといえる。

4. 地域資料の取り扱いにおいて注意を要する点

まず、利用者の故意や不注意による損傷が挙げられる。蛭田（1999）は、一部の心ない者によって書き込みや切り抜きがされたり、不注意な飲食や保管状態および持ち運びなどによって、汚されたり破られたりすることがあるとしている。そのため、利用者に資料の取り扱いについて理解してもらい、協力してもらう必要がある。方法として、利用者にはパンフレットやチラシで注意を促すやり方がある。また、鳥取県立図書館では、資料の返却

期限日のしおりに注意事項を掲載するといった方法で利用者に伝えている。このように、工夫した方法で、利用者の意識を喚起することが重要である。さらに、木野（1998）は、貴重図書資料の閲覧は館外帯出を許可せず、閲覧は専用閲覧室とし、閲覧の際の筆記用具は鉛筆のみとし、万年筆・ボールペン等は禁止し、電子複写は許可しない必要があるとしている。資料によっては、館内のみの閲覧にした方がよいものもあるだろう。また、コピーしようとして、無理に開くと製本が崩れ、損傷してしまう恐れがあるため、禁止することも止むを得ない。

次に、展示や保管の際に破損してしまうことが考えられる。蛭田（1999）は、利用者が直接資料に触れることがないような展示でも、やり方によっては劣化を促進し、資料を傷めてしまうことがあるとしている。よって、見やすさや見栄ばかりを追求するのではなく、資料に負担がかからない方法で展示をしなければならない。また、図書館資料は有機物で作られているため、保管の環境によっては傷めてしまうだろう。そのため、蛭田（1999）は、資料がどのような要因で劣化するかを理解し、具体的な資料保存対策を立て、実施する必要があるとしている。資料が劣化する環境要因として、温度・相対湿度、紫外線、虫、カビ、チリ・ホコリが挙げられる。資料によっては、破損する原因はそれぞれであるため、一点一点の資料に応じた方法で対策していかなければならない。つまり、図書館員は、資料の補完環境の点検と整備を行うことが望まれる。このように、資料をとりまく環境を整備することで、劣化の速度を緩めることができるだろう。

5. まとめ

まず、地域資料の範囲を定める理由として、利用者に地域を見据えた資料を提供するためであることを述べた。次に、地域資料の分類を一般資料と異なるものにする理由として、利用者が目的の資料を迅速に見つけることができるようにするためであることを述べた。また、取り扱いで注意を要する点として、利用者に資料を提供する時、資料の展示や保存の時を挙げた。

調べてみて、なぜ地域資料の範囲を定めなくてはならないかなど地域資料について様々なことが分かった。また、地域資料は、住民に情報を提供し、生活を支援するため、重要なものであることがわかった。それから、その資料を重要な文化財として保存するには、図書館員だけでなく、利用者である私たち一人一人が気をつけなければならないと感じた。本を大切に扱わなくてはならないことは、地域資料だけではなく、他の資料でもいえることである。よって、図書館の資料を利用する時には、改めて心がけようと思った。

【参考文献】

- 1) 地域資料入門 / 荒井敏行, 根本彰, 蛭田廣一著. -- 東京 : 日本図書館協会, 1999.
- 2) 図書館資料論 / 平野英俊著. -- 東京 : 樹村房, 1998.